

経営者の皆様に、次への視野(スコープ)を。
毎月、かんぽ生命がお届けします。

かんぽスコープ

Vol.80

経営
時流

パート社員の職住近接を。 パート社員戦力化は、家族ぐるみで考える。

パートといえば主婦。その主婦が、日本経済の鍵を握る予感があります。

6月に閣議決定された「ニッポン一億総活躍プラン」のテーマのひとつは「働きたい人が働ける社会をつくる」ことに集約されますが、では「働きたいのに働けない」のは誰かというと、家事や子育て、介護を抱える主婦層。時間の制約がある中で、主婦の方々により多く働いてもらうことが、日本の未来を切り拓くだけでなく、企業の人手不足も解決する特効薬になる可能性があるのです。そこで今回は、「社長以外は全員主婦」を掲げる株式会社シュフリーの独特な取り組みを紹介します。

働き方に制約があっても、堂々と働けるために。

「この会社では、介護をしている負い目を感じないで済みます」と打



「主婦たちが挑戦し続ける姿を発信したい」と語る坂爪氏。

ち明けるのは、昨年10月に入社した経理担当の井口理恵さん。

井口さんが働けるのは、親がデイサービスに通う週2日だけ。それも、親が体調を崩したり、施設の都合で変更になったりと、予定どおりに出勤できないことがある。これまで3社、パートで働いてきたが、最後の会社では「個人の事情で勤務日の融通はできない」と言われて居られなくなった。それが、シュフリーでは「理解してもらえ」という。「互いの弱さを認め合う」。社長の坂爪達也氏は、シュフリーが主婦だけで運営できる秘訣をこう語る。

坂爪氏には、時代を先取りする意図がある。生産年齢人口の減少と高齢化による介護の増加。これからは、フルタイムで目いっぱい働ける人が減り、特に中小企業では必要な人材の確保が難しくなるだろう。「働き方に制約のある人でも堂々と働ける、そのための企業体質とルール、仕組みをつくりたいのです」

補い合いながら、柔軟に働ける体制を構築。

とはいえ坂爪氏は、会社設立の当初からそうした理想を温めていたわ

けではない。同社の事業は、企業が販売促進や顧客サービスとして運営する会員制度に、メンバー特典を提供する代行業。かつては男性も在籍する普通の会社だったが、創業15年を迎えた2013年、坂爪氏は急に不安を覚えた。

「何か特徴を出してブランド力を高めないと、小さな会社が生き残れないのではないかと。そこで、わが社には何かないかと悩んでいたとき、偶然に男性社員が辞めて、パートを含めて社員全員が主婦になっていることに気づいたので。ならば、いっそ、これを会社の柱にしよう」と、

はじめに取り組んだのは、主婦の活躍を後押しするための企業理念と、それを支える就業規則の策定。

全員参加で意見を出し合い、徹底的に議論した。

「企業理念を実現するために就業規則がある」と考えて、締めつけるのではなく、



「やっと居場所を見つけた」と安堵の表情の井口さん。



女性ならではの視点から、魅力的な特典サービスが生まれる。

株式会社シュフリー
〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-7-12
清話会ビル ☎03-5212-4311 <https://shufree.com/>

働きやすくなるルールとするように
発想を転換しました」
働く主婦には、家庭の事情で突然の欠勤や遅刻、中抜け、早退をせざるをえないときがある。残業不可の人もいる。これらを最大限認める規則とし、有給休暇を一時単位で取れるようにした。自宅の仕事ができるように、テレワークも導入した。
こうした臨機応変な勤務が成り立つためには、急に抜けた人の穴を他のスタッフが埋めなければならぬ。そこで業務の見える化を徹底し、内容や進捗状況を全員で共有。業務の重要度と緊急度により4段階の優先順位をつけ、すみやかにフォローできる仕組みを築いた。
また、就業時間中に社長を除く社員が歓談する15分のカフェタイムを設定。「井戸端会議のようなものですね」と坂爪氏は笑うが、雑談を通

じて社員どうしが互いの家庭の事情を理解し合う場になっている。

そして15年には、社名を「シユフリー」に変更して理念をストリートに表現。現在は正社員が3名と、パート社員が4名。仕事内容、情報伝達、評価制度、いずれの面でも正社員とパート社員の区別はない。

互いに弱さを認め合う、家族ぐるみの共同体へ。

互いに補い合い、柔軟な働き方ができる体制を整えた同社だが、しかし、休みの取り方や仕事の負担など、不公平が生じることはあるはずだ。それを不満に感じないのは、冒頭で坂爪氏が言った「弱さを認め合う」組織になっているからだろう。

「相手の弱さを受け入れられるためには、その子どもや親など、家族の顔が見えていることが大事です」

この「顔が見える関係」をつくるのに役立っているのが「夏休み子どもわくわく体験会」。毎年10回、自然体験や料理教室、施設見学など、社員が当番制で趣向を凝らしたプログラムを用意し、全員の子どもたちを引率して楽しませるイベントだ。昨年は子どもだけでなく、祖父母(社員の親)も招いて盛り上がった。

「社員は家族ぐるみ、共同体だと思うのです。だから、弱みも見せ合える。弱音を吐けず、頑張るしかない」と、いずれ行き詰まってしまうからね」

パート社員のインセンティブに、退職金の導入を検討しませんか？

パート社員の“やる気”を喚起し、功績に報いる。そのための施策に、退職金制度が活用できます。さらに、優秀なパートさんに、なるべく長い時間働いてもらうために、いわゆる「103万円の壁」の問題を解決する手段にもなります。



ぜひご覧ください

マンガで楽しく、分かりやすくご案内しています。

かんぽビジネスライブラリ
「パート社員戦力化資金に活用」の巻



資料をご要望の皆さまへ

ご覧の資料をお届けします。
ご要望の方は、お手数ですが、かんぽ生命保険の最寄りの支店までご連絡ください。



文=阿部博幸

医療法人社団博心厚生会アベ・腫瘍内科・クリニック理事長。臨床内科専門医、労働衛生コンサルタント。著書に『がんで死なない治療の選択』ほか多数。

がん治療最前線

免疫力の低下とがんの関係

免疫の働きとは何か？

免疫とは疫(病気)を免れる、つまり病気にならないように体を守る仕組みのことです。少し専門的な言い方になりますが、免疫は「自己」と「非自己」とを区別する力と定義されています。自己とは自分自身の正常細胞、非自己とはそれ以外の細胞、つまりウイルスや細菌、がんなど異常な細胞のことです。

免疫の働きは大きくふたつに分けることができます。ひとつが「自然免疫」。異物に気づいて最初に働く免疫反応のことです。これにはマクロファージ、樹状細胞、ナチュラルキラー(NK)細胞といった免疫細胞が関わっています。異物を見つけるとほかの細胞の指示を受けることなしに、すぐさま単独で攻撃を仕掛けます。体が自然に反応する最初の免疫ということで、自

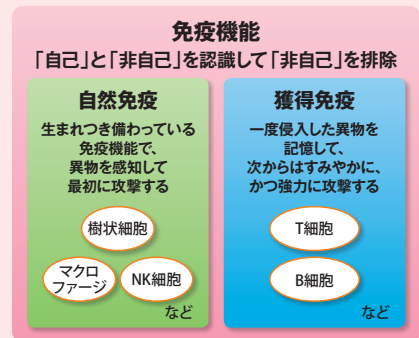
然免疫とよばれています。

もうひとつの免疫の働きは「獲得免疫」です。免疫の司令塔といわれる樹状細胞の指令によって活性化した免疫細胞(T細胞、B細胞など)が「非自己」の異物を攻撃します。一度指令を受けた免疫細胞は排除すべき異物の攻撃方法を記憶し、次からは即座に排除するようになるという、高度な免疫反応を行うのが獲得免疫です。麻疹(はしか)に一度感染すると以後かからなくなったり、ワクチンの予防接種で発病を予防できたりするのも獲得免疫によるものです。

免疫力の低下ががん発症につながる

免疫力が低下した状態とは、免疫細胞の働きが悪くなっている状態ともいえます。たとえば、遺伝子のコピーミスで生じたがん細胞を監視して排除に努めている

NK細胞は、20歳くらいをピークにその活性がどんどん下がっていきます。NK細胞の活性が低下し、処理できないがん細胞が増えてきて、それが増殖してがんとなります。40歳を過ぎるとがん患者が増えてくるのは、NK細胞の活性の衰えが大いに関係していると考えられています。



(注)

記事中に記載の法令や制度等は取材当時のもので、将来変更されることがあります。詳細につきましては、各専門家にご相談いただきますようお願いいたします。